

アジア地域の安全保障特集：

米軍は中国軍の第一の作戦対象である

漢和防務評論 20130625

(訳者コメント)

漢和防務評論ネット版 6 月号に掲載された中国軍内の戦略論文の傾向に関する記事を紹介します。

記事は中国軍の作戦対象順位及び発生する可能性のある軍事衝突の態様についての論文を紹介しています。

従来、中国軍の第一の作戦対象は台湾軍でした。しかし相対的に中国軍の戦力が台湾軍を上回るようになると、台湾侵攻の際の最大のネックは米軍の介入です。

したがって米軍の介入を阻止するための方策に関する論文が多いとのことでした。またある時期以降、戦術核兵器を使用して米国空母を攻撃する戦法研究を強調しているのは注意すべきであると記事は述べています。

KDR 北京 JOHN CHANG 報道：

台湾軍は、長年にわたって中国軍の最大の仮想敵であった。しかし最近、中国軍内の出版物を見ると、以下の考え方が出現した：中国軍の主要作戦対象は、米軍、台湾国民党軍及びインド軍である、と。インド軍は第三の仮想敵になった。

軍内出版物に掲載された論文によると、将来 20 年以内に、中国周辺の国家と地域の情勢が悪化する可能性がある主な方向は、台湾海峡、南沙群島、中印国境、朝鮮半島である。

中国が最も巻き込まれる可能性のある軍事衝突は次の通り：

一、中国は台湾への武力攻撃を迫られ、米軍が介入、その結果核戦争を背景にした高強度、高技術の局地衝突が勃発する。

KDR 註：注意すべきことは、中国軍内部出版物はある時期以降、戦術核兵器を使用して米国空母を攻撃する戦法研究の必要性を幾度も強調している。

二、ベトナム、フィリピンは、米国及びフランスの容認のもと、南沙群島で衝突を挑発する。中国軍は反撃を迫られ、日米はそのとき国際航路の安全を理由に介入し、引き続き強度は低いが高技術の海空局地戦争が勃発する。

KDR 註：ここでなぜフランスを引き込むのだろうか。如何なる論理に基づくのかは不明である。

三、インドは大国の支持を得るため、国内矛盾をすり替え、中印国境の衝突を挑発する。

なぜ米軍は台湾軍に代わって中国軍最大の敵になったのだろうか？本誌は、二つの要因があると考え。その一、当然、兩岸の政治的関係の緩和である。その二、近年来、中国軍は自らの軍事力が台湾軍を超越したとの自信を持ちだした。したがって各種軍内論文で台湾軍を評価するとき、台湾の空軍、海軍の戦力は、すでに中国軍にはるかに及ばないと述べている。また開戦当初、中国の空地一体化作戦により、台湾の指揮・意志決定機構及び後方の潜在戦闘力を全面破壊することを強調している。

論文が重点的に強調するのは、台湾に対する迅速な空挺降下作戦の重要性である。これは米国の介入意志を低下させるためである。

“敵後方の潜在戦闘力”とは明らかに経済施設等を含む台湾軍の継戦能力を指している。

一方、類似の論文の中で、如何に米軍の介入を阻止するかに多くのページを費やし論じている。論文は、戦術弾道ミサイルと巡航ミサイルで、沖縄、グアム、日本、韓国の米軍基地を攻撃して米軍のアジアにおける後方支援センターを破壊し、また先進的潜水艦発射ミサイル、魚雷、防衛区域外から発射する高超音速空対艦ミサイルで米軍空母戦闘群を攻撃すると述べている。更に、米軍と引き分けに持ち込みさえすれば、米軍に大量の死傷者がでるので、米国国内の反戦機運を盛り上げることが出来ると述べている。

インドとの作戦に関する論文では、幾度も弾道ミサイル迎撃システムを建設し、インド軍の“プリットビー型”“アグニ型”弾道ミサイルを迎撃する問題を論じている。このことから、現在中国が開発を急いでいる弾道ミサイル迎撃システムの第一の対象国はインドであることが分かる。

以上